

漢法苞徳塾資料	No. 184
区分	診察論・脈診
タイトル	短脈に関して　　――質問に答えて――
著者	八木素萌
作成日	

◎質問の内容

「不満于部者曰短脈」（部ニ満タザルモノヲ短脈ト曰ウ）と記述されているとのことですが、「部」とは「脈診する部位」に対して述べているのでしょうか？
 また「短脈」というのは、どのような診断論的な意味があるのでしょうか？
 また「脈診する部位」と言う場合には所謂「脈口」を指しているのでしょうか？
 具体的に理解しようとする時には、どうも解りにくいのですが？
 理解しやすいように説明して下さい。

◎短脈の定義の理解について

- ▽「短不長也・両頭無・中間有不及本位・氣不足以前導其血也・為陰中伏陽・為三焦氣壅・為宿食不消」
 〈短ハ長カラザルナリ・両頭無ク・中間ニ本位ニ及バザルモノ有リ・氣不足シ以テ前ニ其血ヲ導クナリ・陰中ノ伏陽ト為シ・三焦ノ氣ノ壅ガリト為シ・宿食ノ不消ト為ス。〉（滑寿・診家枢要）。
- ▽「短ハ按拳似タリ数ニ・不ス及ハ本部・人迎与ト氣口ニ相応則ハ・邪閉トツ経脈ヲ・積渴ス臟氣ヲ」
 〈短ハ按ジ拳セバ数ニ似タリ・本部ニ及バズ・人迎ト氣口ニ相イ応ズルトキハ・邪経脈ヲ閉ズ・積臟氣ヲ渴ス〉（曲直瀨道三・診脈口伝集）
- ▽「短不及本位・来去乖長曰短・陰也・金也・上不至関曰陽絶・下不至関曰陰絶・乍短乍長曰邪崇・寸短曰頭痛・関短曰宿食・尺短曰脛冷・過於悲哀之人・其脈多短・可以占氣之病矣。」
 〈短ハ本位ニ及バズ・来去ハ長ニ乖シテ短ナルヲ曰ウ・陰ナリ・金ナリ・上ニハ関ニ至ラザルモノヲ陽絶ト曰ヒ・下ニハ関ニ至ラザルモノヲ陰絶ト曰ウ・乍マチ短乍マチ長ナルヲ邪崇ト曰ウ・寸ノ短ナルモノハ頭痛ト曰ウ・関ノ短ナルモノヲ宿食ト曰ウ・尺ノ短ナルモノヲ脛冷ト曰ウ・悲哀ニ過グルノ人・其ノ脈ノ多クハ短ナリ・以ッテ氣ノ病ヲ占ウベキナリ。〉（吳崑・脈語）
- ▽「短脈；短則寸上尺下・低于寸尺。凡微澁動結・皆属短類。不但小脈之三部皆小弱不振・伏脈之独伏匿不前也。短則止見尺寸・若関中見短・則上不通寸為陽絶・下不通尺為陰絶矣・故関從無見短之理。短為陽氣不接・或中有痰氣食積而成・然痰氣食積阻碍氣道・亦由陽氣不力・初見阻

塞。故凡見有阻塞之症者・当于通豁之内加以扶氣之品・使氣治而豁自見矣。若使中無阻塞而脈見短隔・急当用大温補以救垂絶・否則便弥不治矣。」

〈短脈；短ナレバ寸上ト尺下ニ・寸尺ニ低シ。凡ソ微・洪・動・結ナ皆短ノ類ニ属ス。但ニ小ナラズ脈ノ三部皆小弱不振ハ・伏脈ノ独リ伏匿シテ前マザルナリ。短ナレバ止マリ尺寸ニ見ラワル・若シ関中ニ短見ラワルレバ・則ワチ上寸ニ通ゼズバ陽絶ト為シ・下尺ニ通ゼザレバ陰絶ト為スナリ・故関ニ短見ワルヽ無キノ理ニ従ウ。短ハ陽氣ノ不接・或ハ中ニ痰氣食積有リテ成リ・然ウシテ痰氣、食積ノ氣道ヲ阻碍シ・マタ陽氣ノ不力ニヨリ初メニ阻〔害閉〕塞ノ見ラワルヽモノト為ス。故ニ凡ソ見ワレテ阻〔害閉〕塞ノ症有ル者ハ・当于通豁之〉（黄宮繡・脈理求真）

▽「短・・応指即回・不能満部」（秦伯未・中医入門）

▽「短為陰」「短則氣病」「短而急者、病在上」（王叔和・脈経）

▽「短脈（陰）： 体象…短脈洪小・首尾俱俯・中間突起・不能満部。
主病…短主不及・為氣虚証・左寸短者・心神不定・短在左関・肝氣有傷・
左尺得短・少腹必疼・右寸短者・肺虚頭痛・短在右関・
膈間為殃・右尺得短・真火不隆」（李延是・脈訣彙辨）

▽「沈而不及也・其象兩頭無・中間有・応手而回・不及本位・此証多因三焦氣壅・宿食不消之故。兼浮者血滯・兼沈者痞塊・見於寸者多頭痛・見於尺者多腹痛・皆氣不足導血之候・屬於肺・宜於秋。若関部短縮・上不通寸・下不通尺・則氣血隔絶・必死。」（中国医学大辞典）

◎短脈の臨床的な把握問題　－脈診手技として－

◎短脈の診断論的な意味をめぐって　－脈書から－

◎その他の問題？をめぐって